



「総合フィールド科学実習」の効用

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 教授 由比 進

岩手大学農学部に入学者1年生ほぼ全員（約230名）に農作業を体験させる「総合フィールド科学実習」。野暮な解説はなしにして、学生が書いた感想を専攻分野別に載せますのでお楽しみください（短縮のために編集）。

- **植物生命科学科** 授業とは思えないほど、楽しかった。入学当初は友達ができるか不安だったが、それも解消した。育てる楽しさと、実験しながら考察していく楽しさ。
- **応用生物化学科** 食べもののすべては生きていることを実感。他学部でもこの実習を行うと良い。文字を読んでいては起こらない知的好奇心がわいた。大学での能動的な学び方とはどんなものか、実体験を伴って把握することができた。
- **森林科学科** 農学部に来なかったら一生触れずにいた経験。楽しかった、の一言。実習を終えた時は強い達成感を感じた。こうすればああなるという領域ではなく、複合的な視点が必要。最も農学部らしい授業であった。
- **食料生産環境学科** 雨天中止は悲しかった。家に帰っても実習を行えた（注：収穫物を調理して食べること）。入学した理由の一つがこの実習。あっという間に実習が終わってしまって悲しい。食のありがたみを実感し、意識が高くなった。
- **食料生産環境学科
水産システム** 春化や根粒菌など、自分の知識と体験が繋がった。専攻と異なる実習に疑問があったが、第一次産業は密接に繋がっており、この実習はとても大事な機会だった。農作業を通じて仲間と交流できた。実学は五感を使って学ぶものだと感じた。大学で畑を耕すことができ、本当に誇りに思う。
- **動物科学科** 生き物はすべて、温度や日光などの変化を大きく受けていることを実感。作物を育てて人との関係性も構築できた。友人と語りながら食べた枝豆は今までで最高においしかった。岩手に来て農学部に入ってみんなで畑の実習ができたことは本当によかった。授業のないときに農場に行って、作物が成長していく様子を見守るのが単純に楽しかった。
- **共同獣医学科** 植物に直接関わる機会が少ない学科でも、農作業を行うことは非常に重要。交友関係を広げられ農学部の自覚を持つ意味でも、来年の1年生にも是非勧めたい。自然は思った通りに行かない。将来農業に関わることはないが、だからこそ畑作業を経験できたことはよかった。野菜がただで手に入ることの素晴らしさ。1年生の前期にこの科目があることは人間関係の形成においても凄いいい機会。



上田キャンパス下台圃場で行われる総合フィールド科学実習（2019年6月）

公開講座「第2回大学農場で体験する食と農と生物学」を開催

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学

令和3年7月29日に公開講座「第2回大学農場で体験する食と農と生物学」を滝沢農場で開催しました。昨年は開催を断念したため、2年ぶりの開催でした。本公開講座は、滝沢農場のもつ豊かな教育研究資源を地域社会に開放して、フィールド実習教育の体験を通し、生きるために欠くことのできない食と、それを支える農に対する理解を深める場を提供するものです。今年度も岩手大学のオープンキャンパスがWEBでの開催となり、実際に大学の雰囲気を経験することができないためか、県内の高校生から定員の20名を上回る申し込みがありました。コロナ禍でありますので、教室の収容人数などを考慮し、29名を受け入れました。午前中には、場内全体を見学したあと、クッキングトマト、エダマメ、ブルーベリーを収穫しました。また、昼休みの時間を使って、農場所属学生による1分間研究紹介も行いました。午後には、野菜と果樹について講義したあと、ブルーベリージャム作りを体験しました。終了後のアンケート（大変満足～大変不満の5択）では、全員が「大変満足」を選択していました。農業や大学農場に興味があった生徒はもちろん、特に興味はなく友人に誘われたため参加したという生徒からもよい反応があり、岩手大学農学部への進学を希望する生徒の増加に、いくらかでも貢献できる手応えを感じました。



麻生臣太郎 技術専門職員が森林管理技術賞を受賞

循環型森林管理技術分野 農学系第二技術室長 佐々木一也

全国の大学のうち、演習林がある27の大学が加盟する全国大学演習林協議会では、教育・研究の支援や森林の維持管理に貢献した職員（技術系職員）の技術を評価するために「森林管理技術賞」を制定し、表彰を行っています。

令和2年度に、滝沢演習林の麻生臣太郎技術専門職員が森林管理技術賞の「若手奨励賞」を受賞しました。

この賞は、同協議会が「若手職員で演習林等の維持管理を通じて教育研究・地域連携に顕著な貢献をしたもの」に授与するもので（授与規程第3条）、今回の受賞理由は、「高密度路網の実現および国際大学連携、教育関係共同利用拠点事業等の推進における貢献」です。

測量士やフォレストリーダー等としての技術を発揮し、効率的な演習林の維持管理基盤の整備を牽引してきた実績と、ロッテンブルク林業大学（ドイツ）との教育・研究交流、そして現在演習林が重点的に取り組んでいる教育関係共同利用拠点事業の効果的な推進における多大な貢献等の業績が高く評価されての受賞です。

例年、秋に開催される同協議会の総会と併せ表彰式が行われますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で授与シーンの実現が叶わず、今号でのご報告・ご紹介となりました。今後ますますの活躍が期待されると思います。



新任技術職員の紹介



循環型森林管理技術分野
技術職員
押切智博

押切智博です。今年度4月より御明神演習林で森林整備、実習補助等を行っております。岩手大学農学部で林業を学んだ後、大学院では野生動物と交通事故との関係性を研究しておりました。そのため人間と自然

の関わりについて興味があり、いつか将来の環境を担う学生と関わりながら自然の中で働きたい、と考えておりました。

演習林での業務は多くの人と関わりながら森林作業に従事できるため、毎日楽しく働かせていただいております。

現在は木材の搬出方法や実習の進め方等、実際の現場作業について日々学んでおります。覚えるべきことが多く、まだまだ不安な部分はありますが、いち早く演習林の戦力となれるよう邁進して参ります。

また演習林には学生や研究者、林業事業者の方々等、学内外問わず多くの方が訪れます。少しでもお役に立てるよう、丁寧な作業を心がけ、自然環境に対する学びを忘れずに日々励みたいと思います。よろしく願いいたします。



循環型森林管理技術分野
技術職員
成澤朋紀

この度、農学系技術部第二技術室の技術職員に新規採用となりました、成澤朋紀です。普段は演習林の中で、森林管理を中心とした業務を行っています。

私は、大学では農業経済学やリモートセンシング、GISを主に勉強していま

した。研究は森林を対象にしていたものの、林業について専門的に学んだことはありませんでした。そのため、知らないことも多く、慣れない機械操作に苦戦することも多々あり、勉強の毎日です。しかし、森林の中で自然の魅力を感じながら仕事をすることができ、とても充実した毎日を送っています。また、環境問題に関心があるため、日々の森林管理業務によって森林の公益的機能の維持・保全に貢献していると思うと、自分の仕事が誇らしく思います。

今後は、知識と技術をもっと身につけ、後世に誇れるような森林づくりに貢献していきたいと思います。今後とも、宜しくお願い申し上げます。